

# 注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

区分	事例・アドバイス	対象	酪農経営・肉用牛繁殖経営・肉用牛肥育経営
タイトル	県内A法人におけるデントコーン増産に対する取り組みについて		
【概要】	石灰質資材は、薄く広くより集中投入が効果的である。肥料費も一筆毎の管理と成分見直しで費用の圧縮が可能。コーンサイレージについては20Kg/日/頭以上の多給が可能である。		

## 【内容】

### 経過概略

#### 【平成17年】

収穫面積：約50ha

秋の収穫作業から一本化。サイレージ調製は既存バンカーおよびスタックなど様々。

11月から収穫したデントコーンを使用しTMR調製および構成農家へ配送開始。

デントコーン現物量は15kg/日・頭。

平成17年産デントコーンサイレージの生産コストは不明。(年間通しての記録記帳・作業の共同化を行っていないので、計算複雑。燃料、人件費、機械費等々不明瞭)

持ち込みデントコーン分の価格はTMRから抜いて計算。

#### 【平成18年】

作付面積：約75ha。

春の作業のうち堆肥散布以外全ての作業を一本化。施肥体系はほぼ一律散布。

7月にバンカーサイロなど施設竣工。9月下旬から収穫作業開始。全収穫面積をバンカーサイロで調製。

11月から18年収穫分デントコーンサイレージ使用。現物供給量は18kg/日・頭に増加。

一部発達した低気圧の影響で倒伏。収量減。実収量約3,700kg/10a。

サイロ鎮圧用のホイールローダーは1台。平均鎮圧密度700kg/m<sup>3</sup>(推計)

#### 【平成19年】

作付面積：約90ha。

作付面積を拡大し、春散布分の堆肥等投入量を全て把握。(施肥設計上重要)

施肥体系の見直し。ほぼ一律で散布していた肥料について、堆肥等散布量および土壌診断を勘案し、圃場ごとに設計。

GPSによる各圃場の実耕作面積を推定。堆肥散布量・施肥量・反収などの正確性を上げることでコスト低減につなげた。

11月から平成19年分デントコーンサイレージ使用。現物供給量は22kg/日・頭に増加。

サイロ鎮圧用のホイールローダーは2台。平均鎮圧密度750kg/m<sup>3</sup>(推計)

#### 【平成20年】

作付面積：約95ha。

炭カル散布は少量一律から低pH圃場中心に全面積の約1/4に多量投入に変更。4年に1回ローテーション。

堆肥等の投入について、19年よりも広範囲に拡大。散布する・しない、および量について考慮しながら作業実施した。→資料として昨年度の散布状況は事前に作業者に配布。これを考慮して傾斜配分。

肥料成分の見直し(085や372の使用から210に変更)。窒素ベースで約6割の肥料を210に変更。

今年度も堆肥投入量・前年反収・土壌診断に基づいて施肥量を圃場ごとに傾斜配分。施肥播種機を新規導入。

6条MASCHIOバキュームシーダー。現在播種作業中。面積増加しているが作業期間はほぼ同等か短縮の見込み。

【効 果】

年度	作付面積 ha	収量 Kg/10a	肥料費千円	コーン生産 原価 円/kg	サイレージ 給与量 Kg	備考
H17	50	不明	不明	13-14	15	
H18	75	3,700	4,070	9.4	18	
H19	90	3,900	3,776	9.1	20	肥料の一律散布を止め、土壌診断結果により、ほ場毎に設計を行った。
H20	95		集計中		22	肥料成分の見直し(210の利用)また、炭カルの散布についても一律散布から、1/4のほ場にそれぞれ大量投入。